

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4592000113		
法人名	特定非営利活動法人こすもすの里		
事業所名	グループホームこすもす3号館		
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南23167-19		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様1人ひとりのペースに合わせ、楽しく生活できるよう寄り添うケアに取り組んでいる。バイタル測定や排泄・皮膚状態等の観察を毎日行い、状態の異変や表情の変化等に早期に気づき、医療機関へ連絡・相談して連携を取っている。水分量・食事量、排泄状況を把握して記録に残し、健康管理に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居者により良いサービスが提供できることを目的に、職員間の連携を図ることをまず第一に考え、実際のケアの提供につながる観察・気づきを引き出すことに力を入れている。家族に対しては、こすもす便りを毎月発行・届けることで入居者たちの様子を感じてもらっている。田園が広がる地域にも立地しており、屋外で散歩をしたりしながら花を見たりすることで季節感を感じてもらおう努力がなされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本として、年度初めに職員理念を話し合い作成している。その理念を掲示し、職員間で共有、利用者様に寄り添い、実践に向けて取り組んでいる。	職員の出入りがある玄関や事務所に法人理念と職員理念が掲示してある。職員理念は、職員が話し合い作られたものであり、共有・実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルスの影響で、交流の機会が少なかったが、近隣住民より、古新聞や野菜などを頂き、繋がりを持つことができている。また例年は、町主催の文化祭に作品を出展するなどして、交流を行っている。	コロナ禍の影響で地域内交流の減少はあるが、病院受診等で地域に出たときは、友人・知人からの声かけがあり交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルス感染防止のため、取り組むことができなかったが、毎年、年末には利用者様全員で手縫いの手拭きを作成し、近くの神社に奉納している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町役場や地域包括支援センターの担当者、地区の民生委員や公民館長、ご家族代表にご参加頂き、ホームの現状や活動状況等を報告し、ご意見を頂き、サービス向上に努めている。	感染症予防のために参加人数を減らして会議を行っている。日頃の活動状況など報告を行い、意見などの収集に努め、ケアの質向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やたんぼぼの会(ケアマネ会議)を通して、町役場の担当者へホームの現状や利用者様の状況を報告し、協力体制を築いている。感染症対策等についても、随時報告相談し、連携している。	そのときの状況に合わせて報告・相談を行っている。また、直接会っての相談の他、電話・メールの対応も随時行う。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束適正化研修を職場内で実施し、職員同士で身体拘束についての情報や意識を共有し、理解を深めている。また、玄関にセンサーを設置し、施錠をしない日が増え、その時間も長くなってきている。	入居者の状態に応じ、施錠も行うことがあったが、センサー設置を併用し、現在は日中の施錠はしていない。外出欲求が強い場合は、職員が同行して歩き落ち着くの待っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の身体拘束適正化研修時に、虐待についての研修も同時に行っている。また、職員が常に意識し、お互いに注意し合うことで虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な方は活用し、支援している。権利擁護や成年後見人制度については、理解できていない職員もいるため、今後は状況をみながら研修等を実施し、学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や必要に応じて説明し、利用者様やご家族が理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議等で、ご家族から意見や要望をいただけるような雰囲気づくりに努めている。その要望等は、職員全員で把握・共有し、ケアや運営に反映させている。	感染症対策のため通常の面会は制限していたが、感染予防の徹底を図り、ベランダ、玄関先等で距離を保ちながら面会を行っている。家族からも要望等が出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、ケアや業務に関する意見や提案等を出してもらい話し合う機会を設けている。また、代表者や管理者は日常的に職員とコミュニケーションを取り、意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	職員とのコミュニケーションを丁寧に行い、意見収集などに力を入れている。細かい気づきを聞くことで、入居者のケアの質の向上と運営に反映させる努力を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みや有給休暇を取得しやすいように配慮したり、勤務体制を整えたりして、働きやすいと思ってもらえるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は新型コロナウイルスの影響で研修の機会がほとんどなかったが、例年は、外部・内部の研修を行い、職員の知識や技術を身に着けたり、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入している。今年は新型コロナウイルスの影響で研修等の開催がなかったが、例年は研修や交流会に参加し、交流する機会を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には見学していただいている。入所時に利用者様本人の不安や要望を伺い、職員間で情報共有している。また、本人の意向に耳を傾け、安心できる信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の困っている事や不安な事・要望等を伺っている。また、ご家族の思いに共感し耳を傾け、面会や担当者会議等の時に何でも話していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様本人とご家族の状況や、それぞれの意向をしっかりと把握し、職員間で情報を共有して話し合を行い、利用者様に本当に必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての敬う心を持ち、利用者様本位のケアに取り組んだり、掃除・洗濯等、利用者様が各々で取り組める家事活動を職員と共にしたりして、暮らしを共にし支え合う関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で、ご家族の面会や行事参加等の機会が減っている。様子が把握できるよう便りを送ったり、受診結果や現在の状況等を報告し、相談することで共に利用者様を支えていく関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染状況に合わせて、感染症対策を行いながら、知人や馴染みの方の面会を受け入れたり、理美容の訪問を行い、交流が途切れないように支援に努めている。	感染症予防のため、地域内の交流の場に積極的に出かけることはないが、ドライブを取り入れ、季節や景色を楽しむ支援に努めている。これまでは、ご家族との外出などにより関係継続の支援も行っていった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、座る位置を決めたり、共に支え合い、過ごすことができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退所後も、必要に応じた相談・支援を行えるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることが困難な利用者様も多いが、日々の言動や表情、態度から本人の意向や要望を聞き取り、把握するように努め、把握が困難な場合でも職員が意見を出し合い、よりよいケアができるよう検討している。	何気ない日々の関わりの中で本人が得意とすることなどに気づき、日課の中に取り入れている。職員が寄り添い、観察を行うことで本人の強みを見つけることもできている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人やご家族、ご友人等から在宅時の様子を伺い、趣味や日課等の生活の情報収集し、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や記録類、毎日の申し送りを通して、利用者様一人ひとりの心身の変化や状況を、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でケアの見直し・検討を行い、そこで出た意見やアイデアを介護計画に反映させている。利用者様やご家族からは、日々の関わりの中で把握した要望や意向を確認するよう努め、現在の状況に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で本人の意向や思いに近づくため、気づきを大事に考え、職員間で意見交換を行っている。介護計画にも反映し、実際のケア提供にも役立てられているが、個々の情報収集と共有に課題がある。	職員間での意見交換などが活性化され、日々の関わりの中での情報収集のスキルアップを職員それぞれに期待したい。個人の強みを発見してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動や状況を詳細に記録し、申し送りや職員会議等で情報を共有するように努め、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況を把握し、その時々ニーズに合ったサービス提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、地域との交流が少なくなっているが、感染症対策を徹底しながら可能な範囲で理美容院やボランティア等の訪問を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう通院支援を行っている。必要に応じて電話相談や文章等での情報提供を行い、主治医との連携を図っている。	個々人のかかりつけ医を基本として、通院支援を行っている。家族も含め必要な情報提供を主治医に行い、健康管理に努めている。歯科往診は受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、訪問看護を利用し、利用者様の日常の健康管理を行っている。訪問看護師への相談も随時行い、利用者様が適切な医療支援を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに情報提供を行い、安心して入院生活が送れるよう支援している。入院中も病院と連携を取って状態把握に努め、退院時はカンファレンスに出席するなどして、病院との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応の指針を作成し、入居時にご家族へ説明を行っている。重度化した場合には、利用者様の状況に応じて医療機関や訪問看護等と連携を取り、随時ご家族と話し合いをしながら、職員も含めたチームでの支援に取り組んでいる。	重度化・終末期ケアの対応指針は作成しているが、看取りケアには至っていない。重度化対応は、家族をはじめ関係機関と相談をしながら、適切な対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で実践力に差があるため、定期的な研修を行うように努めているが、現在は新型コロナウイルスの影響で外部研修を受けることが難しいため、ホーム内での研修行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルスの影響で、地域と協力しての訓練は実施できていないが、ホームでの火災避難訓練を実施し、避難方法の再確認を行っている。	消防署や地域の消防団の協力は得られる関係性は構築できているが、現状は、感染症予防のため施設内での避難訓練を利用者・職員で行い、避難方法の再確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、プライバシーの保護に配慮しながら、言葉かけや対応を行うように努めている。また、言葉遣いや対応についての研修を行い、日々の対応について振り返りの機会を設け、ケアに活かしている。	入居者の尊厳の保持に努め、職員会を活用し研修を重ねている。言葉かけや対応方法を見直し、改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活ができるよう、希望メニューや、着たい服を選んでもらったりと本人の希望や意思を表現できる環境作りに努めている。また意思表示が難しい方へは日常生活の中で言動や表情からくみ取り、希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活での制限はあるが、一人ひとりのペースに合わせ、希望した生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に着たい服を選んでもらったり、季節に合った服装をしていただいている。また、定期的に理美容院に訪問していただき、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやお盆拭き、食事の挨拶や下膳等、食事の準備や片付けと一緒に取り組んでもらい、食事がより一層楽しいものになるよう支援している。また、誕生日や行事等の食事には好きな物や希望メニューを聞き出し、提供している。	入居者の誕生日には好物を聞き準備する。希望を言葉で表せない場合は、メニューの選択肢を投げかけ意向把握に努めている。外出困難な中で食事だけでも楽しんで欲しいという思いを強く持ち、努力がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分量を把握し、記録している。利用者様に合った食事内容や食事形態、好みの飲み物などを把握し、安定した食事ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや、就寝時の義歯洗浄消毒を行い、口腔内の清潔保持に努めている。本人の能力に合わせて、できない部分の介助をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状態を記録し、一人ひとりの排泄パターンに応じ、定時のトイレ誘導を行っている。その人の言動やサインを見極め誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の維持に努めている。入居者ごとの心身機能に応じて下着の種類を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態に応じた予防に取り組んでいる。毎朝牛乳を提供したり、体操や歩行訓練などの運動を行ったりして、自然排便を促せるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を希望通りにするのは難しいが、本人の体調や気分に合わせて、柔軟に対応するよう努めている。入浴をしたくない時は無理強いをせず、調整したり、入浴ができない時は清拭や足浴を行っている。	一人ひとりの意向に合わせた入浴支援を心がけている。無理強いしないケアに努め、声かけの工夫を行い、清拭・足浴などに切り替えて、清潔保持に努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調や希望に合わせて、午睡など個々のペースで休息していただいている。夜は眠れるまでテレビを見たり、職員が話や訴えを傾聴したりして、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧の作成や薬情の個別収納にて、いつでも確認できるようにし、服薬をチェックシートを用意し飲み忘れ等がないよう取り組んでいる。また、服薬に関して不明な点等あれば、随時かかりつけの病院や薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、掃除や洗濯物、お盆拭きやテーブル拭き等の役割を持ち、生活にやりがいを持てるよう支援している。また、歌が好きな方と歌を唄ったり、散歩や塗り絵をしたりなど、好みに合わせて楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、年度始めに年間行事計画を作成するが、新型コロナウイルスの影響で、自由に外出することができない状況となっている。そのような状況でも、園庭での外気浴や散歩、ドライブにて外に出る機会を設け、少しでも気分転換できるよう支援している。	コロナ禍以前は、家族の協力で墓参りなどができていたが、今は自粛中である。ストレス発散、気分転換などを含め可能な限りドライブに出かけたり、屋外に出て外気浴を楽しむ支援を提供している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして個別に現金を預かり、管理している。現在は新型コロナウイルスの影響で外出できない為、利用者様本人がお金を使う機会が減っている。病院の売店や自動販売機等にて、ご自身で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話を掛けたり、かかってきた電話をとりついたりしている。また、ご家族から来た手紙を、読むことが困難な方には音読して交流を持てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度差に注意して、冷暖房の使用や換気をこまめに実施、調整している。また、利用者様が作成した四季に応じた飾りつけや行事の写真、花などを飾り、季節を感じていただけるよう工夫している。	共有の食堂は日当たりがよく、居心地よく過ごせるようにレイアウトされている。廊下や玄関には季節を感じられる装飾が行われ、ホームの名前でもあるコスモスの花を模した展示を行う等工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人がけのソファをテレビ付近に設置し、ゆっくりテレビをみたり、気の合う方と会話を楽しんだり、洗濯物を畳んだり、思い思いに過ごせるようにしている。また、それぞれ好きな場所に座り、音楽鑑賞や新聞、雑誌を読む等好きなことをして過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や家族のアルバム写真を居室に置いたり、家族や子供の写真、好きな歌手や動物のポスター、お誕生日色紙などを壁に飾ったりして、それぞれが居心地よく過ごせるよう、ご家族にも協力を得ながら工夫している。	居室の配置に関して、入居者ごとの心身機能にも配慮している。自分の部屋やトイレの場所がわかるように工夫し、快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様本人の居室だとわかるよう居室入り口に名札や写真を掲げたり、トイレや浴室などの共有部分にはわかりやすい表示をして認識できるようにしている。また、身体動作や移動に危険のないよう、家具を整備・配置している。		